

臨床研究内容 ホームページ公開用

1. 研究課題名称

大腿骨頸部骨折患者における低体重及び低栄養状態がリハビリテーションアウトカムに及ぼす影響

2. 研究の背景・目的

大腿骨頸部骨折は高齢者に多い骨折の代表であり、リハビリテーションの中でも対象となる患者の多い疾患であります。大腿骨頸部骨折の死亡率に関する危険因子としては、年齢・認知症・性別（女性）・低体重（Low Body Mass Index）・低握力・歩行能力の低下・慢性疾患の有無などがあげられています¹⁻⁶⁾。

しかし、低栄養・低体重は大腿骨頸部骨折患者における死亡リスクにあげられるが、リハビリテーションのアウトカムとの関連性をみた報告は少ないのが現状です。そこで本研究では低体重・低栄養患者に着目し、低栄養患者はリハビリテーションアウトカムにも悪影響を及ぼしているのかを調査し、低栄養とリハビリテーションアウトカムとの関連性を明らかにすることを目的に対象期間における患者様の診療記録を利用させていただきます（基礎情報・診療経過・検査データなど）。

3. 対象者および対象期間

2006年6月～2015年1月までに大腿骨頸部骨折で当院整形外科に入院し、北九州大腿骨頸部骨折連携パスを使用した連続400例。このうち当院退院時までのデータの不備のない194例を統計学的検討対象とします。

4. 研究内容

対象の194例を Geriatric Nutrition Risk Index による栄養評価で重度栄養リスク群、中等度栄養リスク群、軽度栄養リスク群、リスクなしの4群に分けて患者背景および栄養状態の指標、リハビリテーションアウトカムを比較検討します。

また、BMIを低体重の定義である 18.5kg/m^2 未満と 18.5kg/m^2 以上の2群に分けて、患者背景および栄養状態の指標、リハビリテーションのアウトカムを比較検討します。

5. 個人情報の管理について

データの集計の際は患者名をコード化し、個人を特定できないように配慮します。

6. 研究期間

2015.6～2016.6までの1年間

7. 医学上の貢献

大腿骨頸部骨折患者の低栄養状態がリハビリテーションの効果に影響を及ぼしている場合、術後の栄養管理も今後積極的に行わなければならないことが示唆され、今後入院される患者の治療成績向上に役立つものと考えます。

8. 研究機関

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部

9. 連絡先（研究責任者）

上記研究対象期間において該当になる方で研究に対して不都合がある場合や研究に対してご不明な点がございましたら下記の連絡先まで連絡をください。

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部 鈴木裕也

805-8508 北九州市八幡東区春の町 1-1-1 TEL:093-671-9318